



尾久八幡

令和8年度7月号
令和8年7月2日発行
荒川区立尾久八幡中学校
校長 稲葉 裕之

修学旅行に向けての平和学習 第二弾

3年生 平和学習講座 6月11日(木)

本校では、外部人材の活用を積極的に行うことで、学習活動の充実を図っています。

今年9月に実施予定の修学旅行は、「京都」に加え「広島」も訪問する計画です。そのため現3年生は、探究的な学習のテーマに「平和学習」を設定し取り組むことにしました。2年次の11月に行った、地元荒川区で「尾久初空襲」を語り継ぐ活動をしている方々による講演会は、その第一弾でした。



さらに、修学旅行での広島訪問を計画するにあたり、公益財団法人広島平和文化センターが行っている「平和学習モニター校」に応募しました。これは、広島修学旅行を初めて実施するなどの関東の公立中学校を対象に、平和学習の実施と修学旅行先の広島への変更を後押しするための制度で、モニター校になると以下のような支援を受けることができます。

- ・平和学習講座の講師派遣、平和学習用資料等の貸出
- ・被爆体験伝承者・家族伝承者等の派遣
- ・ヒロシマ・ピース・ボランティアによる平和記念公園内の移動解説
- ・平和学習に取り組む広島市の学校との学校間交流におけるマッチング
- ・参加生徒への助成

等

このたび、本校はこの制度の指定を受けることとなりました。

今回はこの制度を活用、広島にある「広島平和記念資料館」の平和学習講座専門試験で合格された講師の方にご来校いただき、クラスごとに特別授業として「平和学習講座」を実施しました。



原爆投下までの過程、原爆被害の実相とその恐ろしさ、核兵器をめぐる世界情勢、後世に伝えたい平和への願いなどについて、パワーポイントを使って生徒に分かりやすく工夫しながらお話いただき、最初から最後まで集中して聞くことができました。そして、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを知るとともに、これから戦争がない平和な世界を築くためにはなにができるか、考えるきっかけとなりました。

今回の特別授業は、これからの時代を担う皆さんにとって貴重な機会であったと思います。今回学んだことを受け止め、平和学習をさらに進めていきましょう。学芸員の皆様、ありがとうございました。

修学旅行に向けての平和学習 第三弾

3年生 被爆体験伝承講話 6月23日(火)



6現3年生は、今年9月に予定している修学旅行で「広島」を訪問することから、「平和学習」に取り組んでいます。今回はその第三弾として、6月23日(火)に「被爆体験伝承講話」を実施しました。

この講話の講師招へいについても、「平和学習モニター校」の制度を活用させていただき、被爆体験伝承者の濱田千恵さんにおいでいただきました。濱田さんは、被爆者である國重昌弘さんの原爆投下当日の体験証言を中心に、当時の広島市の様子や伝承者としての活動などについて、お話をいただきました。

講話内容

- 1 広島市と原子爆弾の被害について
- 2 被爆者、國重 昌弘さん(当時14歳)の体験
 - (1) 戦争中の生活
 - (2) 原爆が投下される前日、1945年8月5日
 - (3) 1945年8月6日と、その後
 - (4) 被爆体験の証言者になる
- 3 まとめ・被爆体験伝承者としての思い



当日、爆心地近くで被爆され、火傷を負いながらも徒歩で帰宅を試みるなかで見た被災の惨状、帰宅後に行った自宅での壮絶な痛みを伴う治療など、國重さんの実体験による証言を、感情を抑えながらも力強く語る濱田さんのお話は、私たち自身がそこで体験しているかのような感覚にさせられました。そして、濱田さんからは、被害が今も続く事実を認識すること、平和について学ぶこと、実際に広島を訪れて今と未来について考えることが大切であるといったメッセージをいただきました。

今回の学習を生かし、修学旅行での広島訪問をより意義のあるものにしていこうと思います。

他校の生徒との「協力」の姿勢と、周囲の人への「感謝」の気持ちをもって、学校ではできない体験をすることができました。

6組 清里移動教室 6月10日(水)～12日(金)



6月10日(水)から12日(金)まで、区内4校の特別支援学級合同で清里移動教室が行われました。

初日、6月10日(水)は、各校それぞれで東京を出発、渋滞等もあり途中の談合坂サービスエリアでの合流はできませんでしたが、目的地「高根クラインガルテン」では4校揃うことができました。ここで、最初のプログラム「ほうとうづくり体験」を行いました。かぼちゃなど野菜を切る作業は、先週の調理実習で練習したこともあり順調でした。一方、ほうとうづくりでの粉を捏ねる(こねる)作業は、初めてのため戸惑いました。

しかし、インストラクターの方たちの丁寧な指導もあり、だんだんと慣れてきて、まるで“(ラーメン屋さんなどでみかける)麺打ちの職人さん”のような手つきをみせる生徒もできました。それらを施設の方に煮込んでもらい、出来上がったほうとうが今日の昼食です。麺は、各班それぞれで生地を切ったため太さは様々でしたが、自分たちでつくったためか、とても美味しかったです。

片付けを終え、バスに乗り15分ほどで宿舎に到着、開園式、入浴、夕食を終えて、夜は翌日のキャンプファイヤーの準備を行いました。



6月11日(木)、二日目は、長野県白樺湖畔にある「池の平ファミリーランド」まで移動、2つの美術館とエリア内にある動物園で班行動を行いました。



「世界の影絵・きり絵 ガラス・オルゴール美術館」では、藤城清治の30以上に及ぶ影絵作品が展示されており、特に展示室の壁一周全面を埋め尽くす全長 30m のパノラマ連作「白樺湖の四季」は、大きさだけでなく、その繊細な表現技法の凄さに圧倒されました。続く「蓼科テディベア美術館」は、世界のテディベア 11,000 体余りを集めた、世界最大規模のテディベア美術館で、とにかくその数の多さに驚かされました。ジャンルの違いこそあれ、どちらも見ごたえのある美術館でした。

次に、「わくわくどうぶつ王国」を見学しました。ここには 40 種類以上の動物がいるだけでなく、それらをかなり間近で見たり、実際に触れたりできる珍しい動物園でした。例えば、フクロウはケージに入れずに屋外の止まり木に留まっているので、すぐそばまで近づくことができ、一緒に写真を撮りました。また、リスザルやナマケモノがいる檻には入ることもでき、中に入るとリスザルが肩に乗ってきたり、木の枝を動き回るナマケモノを目の前でみたりすることができました。よくある幼い子向けの“ふれあい動物園”とは一味違う、他ではできない貴重な体験ができる動物園でした。



その後、池の平レイクサイドプラザまで移動、昼食とお土産購入、そしてソフトクリームを堪能してきました。



夜はキャンプファイヤーの予定でしたが、開始時刻になって雨が降り始めたため、急遽、体育館でのキャンドルファイヤーとしました。採火のセレモニーでは、石井さんと山下さんが八幡中の代表として“火の神”から「元気の火」と「友情の火」を受け取りました。その後のレク大会では、「猛獣狩りゲーム」とフォークダンス「マイム・マイム」を行いました。他校の生徒とも交流を深めながら、盛り上がることができました。

6月20日(金)、最終日は退園式の後、川俣川釣りセンターで釣り体験をしました。釣りは初めてだけど思いのほかうまく釣れた人がある一方、目の前の川の中を魚が泳いでいるのが見えているのにエサに食いつかずなかなか釣れない人もいました。さらに、自分たちでさばくのですが、慣れない作業にてこずっていました。しかし、そうした苦労して目の前で焼いた魚は、ふわふわで塩味が効いていて、とても美味しかったです。



今回の移動教室は、6組内はもちろん他校の生徒とも3日間の生活で「協力」をし、様々な周囲の方たちの支えに「感謝」しながら、学校ではできないことをたくさん体験できた三日間でした。ここでの成果を学校に戻ってから生かして行ってほしいと思います。